

TICA

乙一の小説が映画化になるっていうのは、映像的な感じがするし、短編だからそれほど配役にもこだわらない。でも浅倉卓弥の『四日間の奇蹟』を吉岡秀隆でやるっていうのは、こういう役は、みんな吉岡秀隆かい？って感じ。もっとこの主人公は透明感があって禁欲的。とろ～んってより、キーンって感じじゃないと。もうちょっと若いときのトヨエツなんかイメージよ。

題名	作者	コメント	コメコメント
海の上の ピアニスト 白水社	アレクサン ドロ・バリ ツコ 草皆伸子 訳	舞台用に作られた本。1900年、船の中に捨てられていた子どもが一度も地上に降りることなく死ぬまでを船で過ごす。お伽噺に徹底して最期はもっと幸せに終わらせてあげたかった。映画は観ていないけれど、揺れている船の上で動き回るピアノを弾き続ける場面は映像にぴったりだろうな。	捨て子の名前を、生まれた年にちなみ1900と名づけるなんて外国！って感じ。
アフター ダーク 講談社	村上春樹	たった一晩の話が村上春樹っぽい話の流れで綴られる。話では夜が明けるけど、私の読後感は夜明けのまま。。内容については、前にC a c c oが書いているのでそちらを参考に。 このまえの芥川賞の発表のときに阿部和重が選ばれたことに関して、審査員の「村上春樹と島田雅彦にあげなかった間違いを繰り返さずにすんだ」っていうコメントを読んで、村上春樹ってすごいんだなって思った。	思惟（しゆい）って言葉を初めて知った。前から知っていたら子どもの名前にしたのになあ・・・ってもう娘は16歳になったけど。 次の子どもの名前は絶対、思惟にする！ …はい、犬の子どものことですよ。
ANOTHER MONSTER 小学館	ヴェルナー・ヴェーバー 浦沢直樹 長崎尚志 訳	ビッグコミックオリジナルで連載されていた『MONSTER』のその後を、ヴェーバーというジャーナリストが当時の証言者を訪ねながら、写真や資料をまじえ「取材」していくという設定で、歴史的背景を織り込みドキュメントのように浦沢直樹が書いている。	漫画は肝心な最後のところが、とんとんとと進んじやって解からないところがあったから、これで解かるかと思ったのに、いやあ、ちっともわかんなかった。あははー
塔の断章 講談社	乾くるみ	出だしに塔の間取りが載っていて本格っぽい感じがしたけど、全然現代風。最初に殺人事件の場面があり、時系列がばらばらな「断章」で進んでいく。巻末に、オドロキの著者本人の「どお？みんなここでだまされたでしょ？」ってネタばれと「誰も解かってくれない」仕掛けの説明がつくのは、抵抗があり、	このひと、性格かなりわりいと思う。

		ワンアイデアの自己満足じゃん、って言いたくなる。	
トキオ 講談社	東野圭吾	時を生きる時生の最期の場面から始まり、どうしようもない男だった父親の若い頃に姿を変えて戻り、二ヶ月間生活を共にする。タイムトラベラーものは好きだけど、これはあんまりひねってない。	国分太一が主役でNHKドラマになった。 トキオでTOKIO。 NHK っばい。
残虐記 新潮社	桐野夏生	失踪した作家が残した原稿には、25年前の少女誘拐・監禁事件の被害者であった記憶が綴られていた。『OUT』は、小説が先で現実の事件が起きたから不謹慎にも面白いって思ったけど、子どもの事件を題材にしたフィクションはやっぱり気持ちよくない。	
幻夜 集英社	東野圭吾	阪神大震災の日に、叔父を殺したところを目撃された女に「二人で夜を歩こう」ってなこと言われて、言われるがままに行動しちゃってドツボにはまっていく男。重い話だけど、東野圭吾、とっつこ読めちゃう。一人の人間との出逢いで人生どうにでもなっちゃうんだよね。	主役が犯人の小説だと犯人に感情移入しちゃうから、犯人捜しの方が好き。
編集狂時代 新潮文庫	松田哲夫	健ちゃんからC a c c oに行って、うちに来た。ぱらぱら〜っと読んだ。子どもが、将来は漫画を読める仕事がしたいって言うから、編集者がいいよって薦めたら、なんかとっても安易に誤解してるようだし、まるで本を読まないからだめかなー。	なんでも集めるってのも困るけど、収集癖がないのもつまらないもんかもね。
さまよう刃 朝日新聞社	東野圭吾	一人娘が陵辱され殺される。犯人たちは未成年者。一人遣された遺族の父親による復讐殺人が始まる。さまよう刃はどこに向けられるのが正しいのかー。	余韻を残したくなかったから読み終えたらすぐに次のが読めるように本を用意しておいた。
博士が 愛した数式 新潮社	小川洋子	面白かった！ 数字の美しさにしか興味がない博士と、家政婦とその10歳の息子の関係が優しい。博士は息子をルートと呼び、√の強さを説く。博士は事故で記憶が事故以前のものしかなくなり、現在の記憶も80分前までしか維持出来ないため、小さな覚え書きの紙を沢山背広に貼り付けている。最初は逢うたびに靴のサ	デジタル時計をみたら、ゾロ目だあ、とか誕生日だあ、とか思っちゃう。夜中に見ると結構2時ぴったりとか、一番晝がでやすい3時15分だったりすることが多い。きゃ〜っつ ☆☆☆☆☆

		<p>イズから聞かれ、めんくらっていた家政婦も、冷蔵庫の製造番号の数字に「潔く妥協せず孤高を守る」素数に愛おしさを感じるようになる。元阪神の江夏を愛してやまない博士を守る家政婦の母子と、毎朝目覚めるたびに覚え書きをみて「80分しか記憶がない」という事実を受け止めなくちゃいけない博士の切なさに泣ける。</p> <p>「センセイの鞆」以来の好きな小説。まだ3月だけど、今年一番のお奨め本になる予感。</p>	
<p>妊娠カレンダー 文芸春秋</p>	<p>小川洋子</p>	<p>芥川賞受賞の『妊娠カレンダー』を含む中篇が3編。『ドミトリィ』に出てくる両手と片足がないおじいさんが博士の雰囲気に似ている。友達から『博士〜』は去年書店の店員が選んだ本のベスト1だと聞いた。私は芥川賞より書店の店員さんが選ぶ方が好き。子どもの学校の2004年1月のベストリーダーも『博士』なんだけど、後ろについてる読書カードを見ると5人しか借りていなかった。</p>	<p>二冊とも登場人物に名前がない。名前をとりあげちゃうと『MONSTER』になっちゃうよ。きゃ〜っ</p>
<p>殺人者は そこにいる —逃げ切れない狂 気、非情の13事件— 新潮社</p>	<p>「新潮4 5」編集部</p>	<p>鶴見の大黒埠頭で遺体がみつかったつくばの事件など、どれも印象的で記憶に残っている。13の事件のうち何件かは未解決。まだ殺人者がどこかにいる。今はいろんな事件が次から次へと起きて、どれがどの事件だったか忘れてしまう。次にこの本が発売されたときに、自分の名前が載らないとは限らない。性格が良くて親子の仲が良かった一人娘に殺された札幌の「両親強盗殺人事件」なんてこともあるんだから。ぞっ…(+_+)</p>	<p>自殺するまでの独白をテープにとった「自殺実況テープ」が怖かった！首をつる間にへんな音が入ってるんだって。こっちの世界とあっちの世界の狭間の音？きゃ〜っ</p>
<p>間宮兄弟 小学館</p>	<p>江國香織</p>	<p>この人はきっと嫌いだろうと思って避けていたけど、子どもに頼む本がなくなりこの本は確かあったはず（学校に行くたびに図書室をチェックしてる）と思って頼んだ。</p> <p>面白かった。恋愛にはまるで縁がないけど、好きなことが多い間宮兄弟。音楽やスポーツ観戦や映画鑑賞、パズル…。休みの日には一日中パズルを解いたり、映画を見たり本を</p>	<p>「失恋すると35歳の兄は自棄酒を飲み、33歳の弟は新幹線を見に行く」ってCMがよく流れてた。本のCMって珍しいよね。</p> <p>☆☆☆☆</p>

		読む。真剣に遊ぶのがいい。それも似た価値観の人が一緒にいるんだからとってもいい。誰が何を言っていようと、自分は自分だっていう無意識の強さは、解かってくれる人を持っているからなのかな。好きな友人が何人かいて理解者もいて、恋も出来る。失恋なんてたいしたことじゃないじゃんと思うのは私がおとなになりすぎたせい？	
ドリーム バスター 徳間書店	宮部みゆ き	異次元の世界テラから地球へと逃げ出した形のない死刑囚が、人間の悪夢に入り込みやがてその体を乗っ取ってしまう。死刑囚を退治するためにドリームバスター（DP）のやんちゃなシェンと師匠マエストロのコンビが活躍する。	宮部みゆきのファンタジーものは苦手で、これも今まで読まなかったけど、慣れれば読める。読めば面白い。
ドリーム バスター2 徳間書店	〃	2冊で終わると思って読んでいたら、中途半端な話が山積のまま終わってびーっくりした。それもわざわざ中篇の書き下ろしをつけて問題を増やしている。調べたら、この本が発行された2003年の秋に「SF japan」って本に続編を載せてるってわかったけど、その本はどこを探しても売ってないし、あったところで所詮続きだし(>_<) 宮部さん、この本に力入れてないのね。。	人との付き合いが苦手なOLが、いつも心の中で語りかけてる犬が、夢の中で飼い主を探してるのが健気だった(T_T)
五千回の生死 新潮文庫	宮本輝	短編集。一日に死んだり生きたりしたくなる男がいる。場面は現実的なのに、その男の話には不思議感が漂う「五千回の生死」。私は最初の「トマトの話」が好き。どの話でも人間関係がさっぱりしてる感じがするけれど、一生のうちにふとしたことで何度か思い出すような付き合いって確かにある。	C a c c oに借りた。人が殺される本が読みたいってリクエストしたんだけどなあ。。

腰痛が絶頂になって歩く事も立つ事も座ってることも出来なくて、お友達は本と携帯しかない日々が続いた。子どもが学校の図書室から借りてきてくれる本だけが頼りだった。普段だったら絶対に読まない「数式」や「江国香織」なんかが当たりで、痛い思いの代償をもらった感じ。なかなか前向きでしょ(^_^)v